



**平成28年度
調布市生活支援体制整備事業
事業報告書**

平成29年4月

**調布市福祉健康部高齢者支援室
公益財団法人調布ゆうあい福祉公社**

目次

1 概要 P1

- (1) 平成 27 年度生活支援体制整備事業の振り返り
- (2) 平成 28 年度生活支援体制整備事業の体制

2 生活支援コーディネーターの活動報告

- (1) **生活支援コーディネーター活動実績** P4
- (2) **調査活動** P6
 - 地域資源の把握調査
 - 住民主体の活動に係る調査
 - 高齢者が活躍できる場
- (3) **普及啓発** P11
 - 「講演会」の開催
 - 「支えあえる地域づくり学習会」の開催

3 協議体報告 P13

- (1) 開催日程と内容
- (2) 協議体メンバー
- (3) 協議体まとめ

4 平成 28 年度生活支援体制整備事業を通して P15

5 平成 29 年度生活支援体制整備事業の方向性 P15

1 概要

(1) 平成27年度生活支援体制整備事業の振り返り

ア 生活支援体制整備事業の開始

調布市生活支援体制整備事業は、「生活支援コーディネーター」が「協議体」のネットワークを活かして、住民主体のサービスを活発化し、地域全体で高齢者を支える体制づくりを地域の方とともに進めるものです。

調布市では、平成27年4月から生活支援体制整備事業を開始しました。

イ 調布市における生活支援体制整備事業の具体的なイメージ

※ 内容は一例のイメージです。コーディネーター等の動きに注目をお願いします。

■第1層イメージ例

↳市全域で、関係者とのネットワーク化やサービス開発を行う

※ 平成27年度から配置済

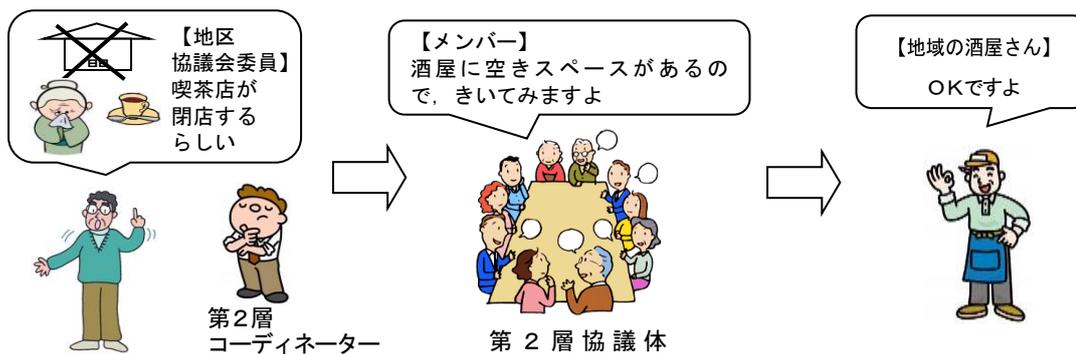
- 第2層の各コーディネーターは、高齢者が気軽に集まれる場所の確保に苦慮しており、第1層協議体にて、困っていることとして報告
- また、第1層コーディネーターは、市の会議を傍聴した際に、空き家をどうにもできず困っている市民がいるという情報を入手
- 協次の第1層協議体に空き家対策関係部署の職員を招集。空き家を高齢者のために活用する仕組みづくりを検討してもらえないか打診
- ⇒市にて、空き家を地域活動のために活用する仕組み（例：マッチング機能、空き家提供謝礼制度など）を構築してもらえた



■第2層イメージ例

第1層の機能の下、各地域（例：日常生活圏域）で関係者とのネットワーク化やサービス開発を行う。 ※平成29年度から配置

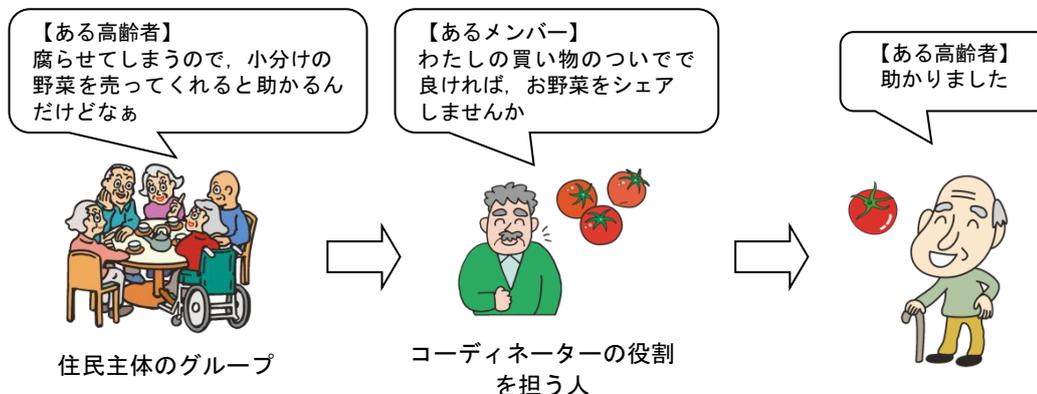
- ☐ 地区協議会に出席した第2層コーディネーターは、高齢者のたまり場となっていた喫茶店が閉店することを委員の雑談の中で聞く
- ☐ 協議体開催。メンバーである商工会の委員から、空きスペースがある酒屋があるので、そこで高齢者が集まってお茶を飲んだりしても良いか提案をするという意見をもらう
- ☐ 商工会委員とコーディネーターで酒屋を訪問すると、良い返事をもらうことができた



■第3層イメージ例

実際の住民主体の生活支援サービスの提供主体となるもの。第1層・第2層は、この第3層を整備するために機能していく。 ※市は配置しない

- ☐ 商店街の空きスペースで、月に数回、お茶を飲んで楽しんでいる高齢者を含めたグループがいる。ある日、ある高齢者が小分けの野菜が手に入らず、野菜を腐らせてしまい困っていることをグループの仲間に話す
- ☐ それを聞いたあるグループのメンバーは、自分が買うついでで良ければ、野菜をシェアしないかと提案
- ☐ 困っていた高齢者は、有り難くお話しを受けることにした



ウ 平成27年度総括

平成27年度の1年間の取組を通して、平成28年度に取り組むべきことを以下のとおり、位置付けました。

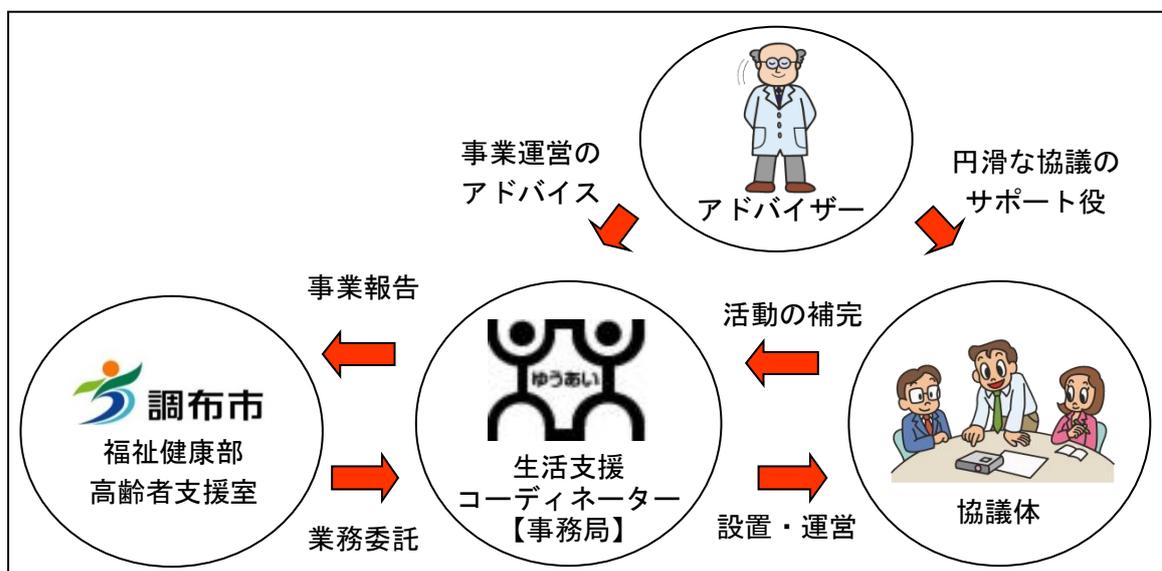
- (ア) 生活支援コーディネーターの活動として、地域の実情を把握し、必要に応じてニーズと取組のマッチングを行う
- (イ) 住民主体の活動に係る実態把握の調査を行う。また、高齢者が活躍できる場を調査し、リスト化する
- (ウ) 支えあいの体制づくりに向けて、講演会や学習会などの普及啓発活動を行う
- (エ) 協議体を開催し、担い手の発掘・育成に向けた取組の方法について議論する

(2) 平成28年度生活支援体制整備事業の体制

ア 実施体制

調布市生活支援体制整備事業の開始時期		平成27年4月 ※平成27年6月から 公益財団法人調布ゆうあい福祉公社へ委託
生活支援 コーディネーター	活動区域	第1層（市全域）
	配置人数	社会福祉士1名（専任） 介護福祉士1名（兼任）配置 計2名
協議体	対象区域	第1層（市全域）
	メンバー	調布市内関係団体10団体15名
アドバイザー		室田 信一 （首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 准教授）
事務局		公益財団法人調布ゆうあい福祉公社 地域事業課住民参加推進係
市の所管部署		福祉健康部高齢者支援室

イ 相関図



2 生活支援コーディネーターの活動報告

(1) 生活支援コーディネーター活動実績

ア 内容と件数 活動合計 325 件

資源開発 203 件	
既存資源の把握, 地域に不足する資源の創出 120 件	
<ul style="list-style-type: none"> ● 自宅開放型コミュニティ・カフェの立ち上げ 1 件 ● 市民活動団体の継続のための課題についての相談 6 件 ● 教育支援コーディネーターに地域ニーズのヒアリング ● 老人クラブへのヒアリング 2 件 ● ラジオ体操を行っている団体の見学 2 件 ● 男の料理教室の活動 5 件 ● 野菜を小分けにして販売するための相談 ● ひだまりサロンの通所回数調査 ● ひだまりサロン見学 2 件 ● 多世代交流の場づくりの相談 2 件 ● ゆうあい協力会員定年後の活躍の場 ● 見守り支援隊を作りたいという相談 ● 単身高齢者の緊急時や死後の不安の個別相談 ● 73 歳以上の活躍の場についての相談 ● 高齢になっても活躍できる場所についての相談 ● 地域の事業所を立ち上げ活躍したい 80 代高齢者の相談 ● 多世代交流の場づくりのための児童分野におけるのニーズ調査 ● つつじヶ丘包括体操サロンの企画 ● すこやか有償ボランティア希望の相談 ● コミュニティ・カフェの創出のための食品衛生の情報収集 ● ちょうふこども食堂の見学 ● 居場所についてのヒアリング(リスクマネジメントについて) ● 要求の強い利用者に対してのゆうあい協力会員の臨時対応会議 	など
サービスの担い手の養成 56 件	
<ul style="list-style-type: none"> ● 講演会の依頼・広報 多数 ● 学習会の依頼・広報 多数 (地域包括支援センターや協議体メンバー, スーパー, 薬局, スポーツジム, サロンなどへの周知のための訪問) ● 協議体のメンバーとの調整 	など
元気な高齢者等が担い手として活動する場の把握 27 件	
<ul style="list-style-type: none"> ● ラジオ体操を主催している方へのヒアリング ● 男の料理教室の活動を主催している方へのヒアリング ● 自宅開放型コミュニティ・カフェ 7 件 ● 多世代交流の場の話し合い ● 狛江子ども食堂 3 件 ● ラジオ体操 2 件 ● ご近所支えあい隊総会出席 ● だれでもカフェ ● 多世代交流の場づくりで活躍できるスタッフ集め 2 件 	など

ネットワーク機能の構築 97件	
関係者間の情報共有 97件	
<ul style="list-style-type: none"> ●教育支援コーディネーターからのヒアリング ●地域福祉コーディネーターとの情報交換 2件 ●ちょうふの里地域包括支援センターと地域福祉コーディネーター情報交換会 ●老人クラブ会長からのヒアリング ●地域ケア会議への出席 ●引き売り情報共有 ●シルバー人材センターとの情報共有 ●地域包括支援センターと見守り支援隊の相談の情報共有 ●多摩川住宅ロ号棟自治会との情報交換 ●ご近所支えあい隊との情報共有 ●調布市認知症を支えあう輪出席 2回 ●多世代交流の場づくりにおける体制についての打ち合わせ ●地域デビューの会役員との情報交換 ●調布アットホーム役員とコミュニティビジネスについての情報交換 ●イトーヨーカドーの地域開放について ●NPO調布市地域情報化コンソーシアム情報交換 ●NPO調布ドットコムの情報利用についての相談 ●多摩川住宅ロ号棟の移動販売等についてヒアリング ●訪問調査のため市民活動支援センターに挨拶 ●地域の高齢者買い物事情についてのヒアリング 2回 ●慈恵医大看護学科学学生訪問発表会 ●すこやか有償ボランティア希望の調整 ●児童分野におけるニーズの児童館へのヒアリング ●ちょうふこども食堂情報交換 	など
その他の活動 25件	
研修・会議その他 25件	
<ul style="list-style-type: none"> ●調布市人材育成支援センターの研修 2回 ●ボランティア保険加入手続き支援 ●ボランティアポイントについての相談 ●東京都主催生活支援コーディネーター情報交換会 ●全国老人給食協力会会員学習会「多世代がつながる共食・共生の場～子ども食堂の事例から」 ●高齢者向きの情報の講座についての相談情報提供 ●ボランティア会議のヒアリング ●戸山ハイツ「未来の物語」を語ろう 樋口恵子氏 	など

イ 活動を通して（成果や課題）

高齢分野に限らず幅広く活動したことにより、福祉分野や子ども分野等の様々な分野の市内関係機関とつながることができました。また、必要に応じて、各機関との引き合わせも行い、地域のネットワークの拡充に寄与できました。

活動している中で、地域福祉コーディネーターと連携が必須の場面がありました。今後は、更に地域福祉コーディネーターとの連携強化が必要になってくることが予測されます。

(2) 調査活動

ア 調査内容と結果（3調査分）

※ いずれの調査も、生活支援コーディネーターが活動を通して把握したものです。実際の団体の数等とは異なります。

(7) 地域資源の把握調査

医療関連機関	
●医療機関（調布市医師会）	147施設
●病院（入院施設）	8施設
●有床診療所	3施設
●訪問診療・往診	57施設
●訪問看護事業所	14施設
福祉関連機関	
●訪問介護事業所	46事業所
●訪問入浴事業所	3事業所
●定期巡回、随時対応型訪問介護看護事業所	1事業所
●通所介護事業所	46事業所
●通所リハビリ事業所	7事業所
●地域密着型通所介護事業所	24事業所
●認知症対応型通所介護事業所	5事業所
●地域密着型認知症高齢者グループホーム	9事業所
●地域密着型小規模多機能型居宅介護	1事業所
●地域密着型看護小規模多機能型居宅介護	1事業所
●特別養護老人ホーム	7施設
●地域密着型小規模特養	1施設
●介護老健保健施設	4施設
●居宅介護支援事業所	47事業所
●地域包括支援センター	10事業所
その他生活サービス関連機関・団体	
●安否確認・見守り	12団体
●配食（＋安否確認・見守り）	11事業所
●家事援助	12団体
●介護者支援	10団体
●交流の場・通いの場	518団体
●移送外出支援	3団体
●その他（宅配など）	25団体

(イ) 住民主体の活動に係る調査（既存の地域活動団体7団体に対するヒアリング調査）

	団体1	団体2	団体3	団体4	団体5	団体6	団体7
内容 活動	公園でのラジオ体操	介護予防のための体操	介護者による集まり	老人クラブ	集合住宅内の見守りのための集まり	居場所づくりと、施設等の訪問をしている集まり	団地内の見守りのための食事会（現在、廃止）
頻度 活動の	毎朝7時	月3回	月1回	月10回程度	月2回	月17回程度	月1回
仲間を切り離さないための工夫	転倒し一時的に歩行できなかった参加者を周りが励まして復帰させた	必要に応じて、地域包括支援センターに相談し、アドバイスをもらう	参加者自身の介護の経験や知識を用いて対応	会員同士で助け合ったり、声をかけ合ったりする	車いす利用者がいたらスタッフが送迎している	代表が福祉職であるため、歩行困難者や精神疾患、がん患者でも通えている	食事会場に来られない人には、配食も行った
新しい仲間の受入れ	自力で来られる人であれば、誰でも	現在定員いっぱいのため、空きがでたら誰でも受入れ。また、地域包括支援センターからの紹介も受入れ	家族を介護している市民であれば誰でも。ただし、新たな要介護認定者の受入れは難しい	60歳以上の方なら誰でも。ただし、新たな要介護認定者の受入れは難しい	集合住宅内の住民であれば、誰でも	市民問わず、誰でも	団地内の住民であれば、誰でも
活動のための工夫 その他	参加者名簿をつくらず出欠の管理をしないことで、リーダーの負担を減らす	会場確保のため、社会福祉法人と連携	新しい参加者を増やすために公開講座等を実施	高齢化により会員が少ないため、役員がお茶出しやいす出しをしている	男性に参加してもらうため、ミニ居酒屋のような工夫をしている	マッサージのスキルをスタッフに伝授し、利用者に癒しを提供している	団地内で孤立死があったので立ち上げたため、顔の見える関係づくりに重きをおいている
課題	リーダーになる後継者がいない	認知症等の参加者に対する対応が分からない	専門的な介護の悩みは、参加者では解決できない	補助金を受けているが、会計が煩雑である。役員・会員が減少	増回する余裕はない	活動場所が民間賃貸店舗のため、賃料が役員負担	（廃止理由）団地建替により厨房がなくなった
認定者の割合	当日参加者44名のうち、5名	数名	数名	4名	要支援者1名。過去に要介護者もいた	2～3名	数名～数十名
行政支援の活用	公園の使用許可	ひだまりサロン助成	ひだまりサロン助成	老人クラブ補助金	ひだまりサロン助成	えんがわファンド	特になし
望むこと 行政に	カセットデッキ等の消耗品費の助成	介護専門職の定期的な派遣	会場提供	会計やお茶出しのボランティアの派遣	特になし	広報の機会の提供	別の厨房の提供があれば良かった

(ウ) 高齢者が活躍できる場のリスト

	活動内容	サービス内容	実施主体
就 労	介護保険上の 身体介護・家事援助	介護保険事業	各事業者
		調布市高齢者家事援助ヘルパー	各事業者
		高齢者施設での補助的業務	各事業者
	介護保険以外の 家事援助	介護保険事業所の自費サービス	各事業者
		家事代行サービス	各事業者
		家政婦	事業者紹介を経て 個人同士で契約
	その他の就労	就労全般	各団体
ボ ラ ン テ ィ ア	家事援助	住民参加型ホームヘルプサービス	調布ゆうあい福祉公社
		住民参加型食事サービス	調布ゆうあい福祉公社
		生活支援コーディネート事業 ちょこっとさん	調布ゆうあい福祉公社
	見守り活動	調布市見守りサポーターみまもりさん	調布市
	認知症支援	認知症サポーター	調布市
	集いの場	ひだまりサロン	各サロン (問合せ：調布市社会福祉協議会)
		生涯学習サークル	各サークル (問合せ：調布市)
	子育て支援	ファミリー・サポート・センター	子ども家庭支援 センターすこやか
	学校支援	学校ボランティア・協力者	調布市教育委員会
	障害者支援	障害者施設でのボランティア	各事業者
		自主グループ活動サポート	調布市社会福祉事業団
	スポーツ支援	調布市スポーツボランティア	調布市体育協会
	地域支援	自治会が行う地域活動	各自治会
		地区協議会が行う地域活動	各地区協議会
		老人クラブが行う地域活動	各老人クラブ
	その他の ボランティア	ボランティア活動全般	各団体 (問合せ：市民活動支援センター)

イ 調査を通して（成果や課題）

(7) 地域資源の把握調査から

平成27年度の地域資源調査と合わせてみると、調布市では各地域に極端な偏りなく、地域活動団体が存在していることが分かりました。

引き続き、地域資源の把握に努めます。

(イ) 住民主体の活動に係る調査

生活支援体制整備事業では、住民主体の活動から「インフォーマルサービス」に展開することが求められています。地域資源調査から、調布市の地域活動は一定の土台ができていること分かっており、今後は、活動継続への支援が重要になってきます。

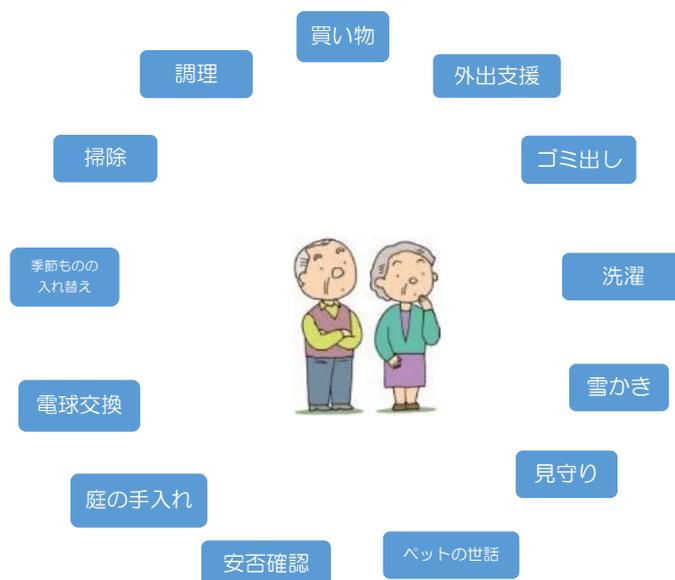
本調査等を元に、地域活動の継続及び「インフォーマルサービス」への移行について、行政としてどのような後方支援をするか検討していきます。

(ウ) 高齢者が活躍できる場

調布市でも少子高齢化は進んでおり、介護人材の不足が予測されています。そのため、新たな担い手として、地域の元気な高齢者にご活躍いただくことが重要となっています。また、地域の高齢者の方も地域貢献の意欲をもってくださっています。

このことから、意欲のある方がスムーズに地域活動を行っていただけるよう、活躍の場をリスト化しました。まずは、地域でちょっとした活動から始めていただきたいと考えています。

今後は、リストの充実を目指します。



(3) 普及啓発

ア 内容及び結果 参加者延べ98名

講演会方式での実施	
題名	高齢者が地域で安心して暮らせるために 「活力ある社会は『地域』が主役～調布市の支えあいの取組実践から～」
目的	すでに市内で実践されている多様な地域活動の取組事例の発表を通して、支えあいの活動に興味がある市民の後押しを図る
日時	平成28年8月5日（金） 10：00～11：30
場所	調布市市民プラザあくろす あくろすホール
ファシリテーター	首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系准教授 室田信一氏
登壇者	おいしいカレーの日 四家綾子氏 ぷくぷく・ポレポレの家 鈴木賀代子氏 ご近所支えあい隊 大塚洋子氏
参加者	56名
ワークショップ方式での実施 ①	
テーマ	高齢者が地域で安心して暮らせるために 支えあえる地域づくり学習会「足腰鍛えて元気がいちばん！～健康体操～」
目的	市民に広く支えあいの大切さを広め、地域活動への意識の醸成を図る
日時	平成28年10月31日（月） 14：00～16：00
場所	調布市文化会館たづくり 9階研修室
講師	ケアフルクラブ悠々園 施設長 柴田智氏（健康運動指導士 介護福祉士） 生活支援コーディネーター
内容	ミニ講座（健康体操について） 調布市の高齢社会の現状 ご近所助けあい体験ワーク
参加者	22名
ワークショップ方式での実施 ②	
テーマ	高齢者が地域で安心して暮らせるために 支えあえる地域づくり学習会「元気なうちからはじめましょう！～終活『物と心の整理』～」
目的	市民に広く支えあいの大切さを広め、地域活動への意識の醸成を図る
日時	平成28年12月6日（火） 14：00～16：00
場所	調布市文化会館たづくり 1001学習室
講師	あんしんネット 石見良教氏 生活支援コーディネーター
内容	ミニ講座（終活について） 調布市の高齢社会の現状 ご近所助けあい体験ワーク
参加者	20名

ウ 開催を通して（成果や課題）

平成27年度からの参加者は延べ120名であり、着実に支え合いの意識の醸成を行うことができました。なお、参加者を分析すると、男性より女性、家族同居より独居の方のほうが地域に関心が高いこと、また、地域活動に即座に結びつかなくても、高齢社会の現状を知ることで自身の将来を考える機会になり、自助の取組を促すうえでも良い手法であることが分かりました。

今後は、いかに地域に関心のない方に参加してもらえかが課題です。

エ 開催の様子

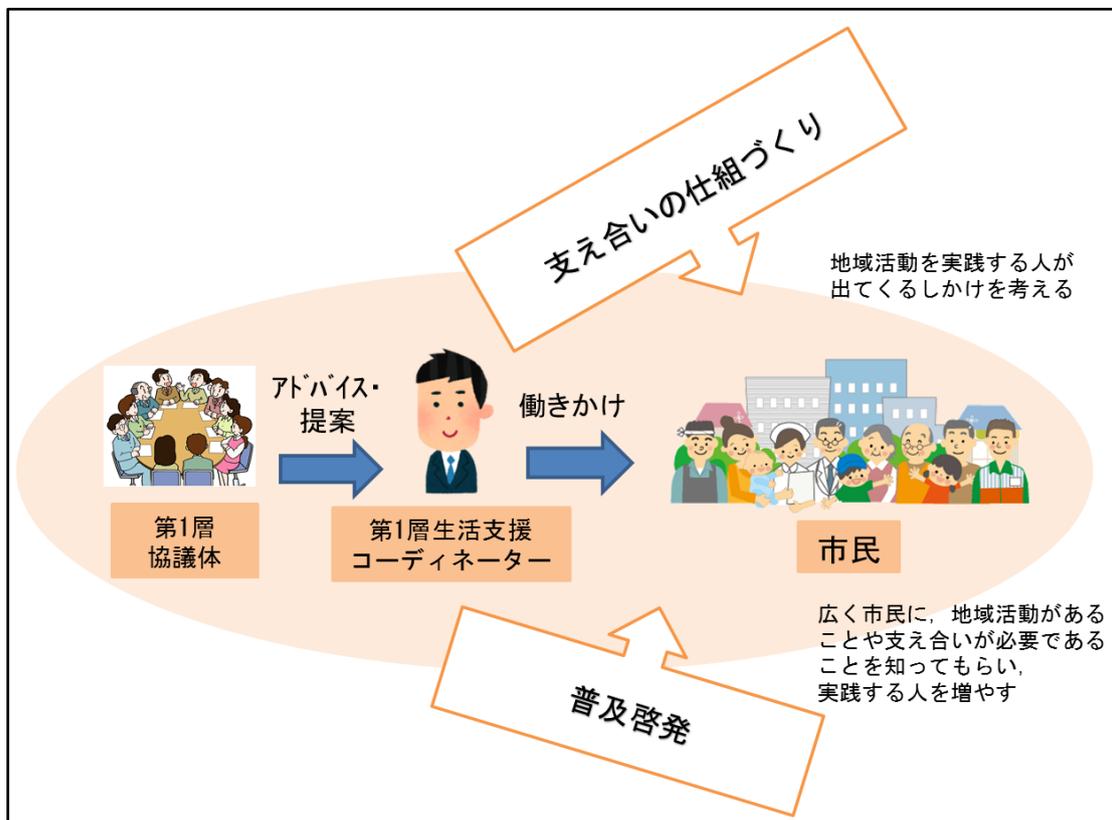


3 協議体報告

(1) 開催日程と内容

	日程	内容
第1回	平成28年 6月24日(金)	●平成27年度生活支援体制整備事業の振り返り ●ワークショップ 「調布市の助けあいの仕組みのモデルを考える」
第2回	平成28年 7月22日(金)	●生活支援体制整備事業で必要とされる 担い手のイメージについて ●学習会の広報について
第3回	平成28年 9月30日(金)	●ワークショップ 「助けあいの仕組みに人を巻き込む方法について考える」
第4回	平成28年 11月24日(木)	●ワークショップ 「具体的な支援について考える」
第5回	平成29年 1月27日(金)	●事業報告

(2) 平成28年度取組イメージ図



(3) 協議体メンバー（敬称略）

調布市の協議体メンバーの強みは、高齢者の生活の現状を良く知っていて生活者に寄り添う視点をもっている第一線の事業所・団体の方たちであることです。

ア 関係団体 10団体15名

氏名	所属
湯澤 信子	特定非営利活動法人 たすけあいワーカーズ調布はこべ 代表理事
末吉 喜世子	特定非営利活動法人 たすけあいワーカーズ調布はこべ
小玉 真理子	有限会社ヘルパーねこの手 代表取締役
鈴木 賀代子	ぷくぷく・ポレポレの家 代表
山口 ゆみ	ぷくぷく・ポレポレの家
橋本 郁子	民生児童委員
高木 直	調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター長
川原 泉	調布市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）
鯨岡 昌平	調布市シルバー人材センター 事務局長
岡田 圭史	調布市シルバー人材センター 主任
竹下 敬子	調布市シルバー人材センター 家事援助サービスコーディネーター
原口 彰男	地域包括支援センターちょうふの里 センター長
竹内 悦子	地域包括支援センターちょうふの里 見守り担当
大山 啓太郎	調布市社会福祉事業団 知的障害者地域生活サポートセンターすくらむ施設長
町田 裕子	調布ゆうあい福祉公社 協力会員おなかまランナー

イ アドバイザー

氏名	所属
室田 信一	首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 准教授

ウ 事務局

氏名	所属
風間 雄二郎	調布市役所 高齢者支援室 高齢福祉担当課長
米倉 勝利	調布市役所 高齢者支援室 高齢福祉担当課長補佐兼計画係長
佐近 巴那	調布市役所 高齢者支援室 高齢福祉担当計画係主事
中垣 裕徳	調布市役所 高齢者支援室 高齢福祉担当計画係主事
松崎 花	調布市役所 高齢者支援室 高齢福祉担当計画係主事
武安 眞珠	調布ゆうあい福祉公社 事業課主幹(事業担当)
細谷 光芳	調布ゆうあい福祉公社 住民参加推進係長
関塚 元太	調布ゆうあい福祉公社 住民参加推進係主事 生活支援コーディネーター
完山 麻弓	調布ゆうあい福祉公社 住民参加推進係主事 生活支援コーディネーター

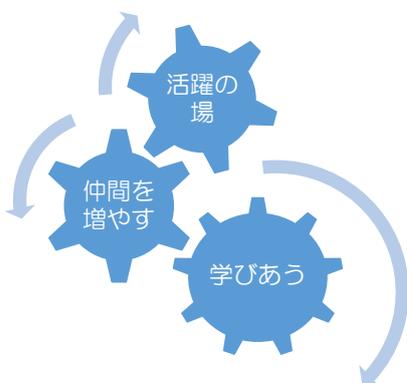
(4) 協議体まとめ

支え合いの仕組づくりに関する協議については、今後、第2層生活支援コーディネーターを配置した場合に活用できる良いアイデアをたくさん頂くことができました。

普及啓発に関する協議は、広報の仕方について頂いたアイデアを実際の普及啓発活動で活用でき、幅広い市民への普及啓発に結び付けられました。

協議体メンバーから頂いた様々なアイデアは、生活支援コーディネーターが活動する上でのお道具箱の道具として、今後の地域づくりに活かしていきます。

(5) 協議体ワークショップの様子



～参考 協議体メンバーで考えた目指す調布市像～

目標

「誰もが楽しく暮らしやすい調布のまちづくり」

「一人ひとりが心も体も元気でいられるまち」

手段

「学び合う」

「仲間を増やす」

「活躍の場」



4 平成27・28年度生活支援体制整備事業を通して

調布市では、既に地域ごとに極端な偏りなく地域活動団体が存在することが分かりました。今後は、この団体を継続させ、また生活支援サービス等をはじめとする福祉的な取組も行ってもらえるよう拡充するには、「専門職の介入による人的支援」・「集える場の支援」・「財政支援」・「行政支援の情報提供」が必要と調査結果もでています。現在は、庁内多部署により地域活動への支援を実施しているため、今後は庁内の整理及び連携が必要であると認識しました。

また、生活支援コーディネーターが地域を回る中で、地域貢献したいと考えている一般市民の方は潜在していることが分かりました。今後は、地域住民の身近に専門職を配置し、少し背中を押すことにより、地域活動団体を立ち上げ、継続させていきます。

5 平成29年度生活支援体制整備事業の方向性

ア 実施体制

第1層 (市全域)	実施主体	福祉健康部高齢者支援室高齢福祉担当の直営
	生活支援コーディネーター	庁内や関係団体との横断的連携を図ることにより、高齢者も含めた支え合いの地域づくりのための取組の有機的な連動を目指す
	協議体	庁内連携会議として設置
第2層 (地域ごと)	実施主体	調布市社会福祉協議会に委託
	生活支援コーディネーター	各地域の一部にモデル配置し、制度の狭間で苦しんでいる方などに対して地域の支え合いの仕組みづくりを行っている「地域福祉コーディネーター(CSW)」と連携をして、高齢者を含めた重層的な地域づくりに取り組む
	協議体	既存の地域での会議を活用

イ 地域住民の皆様をお願いしていくこと

その1

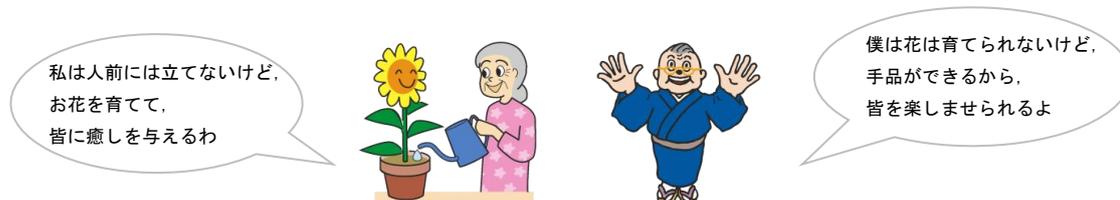
皆に自分の価値に気付いてもらい、特別なことをしなくても助かる人がいることを知るべし！



その2

グループ内で、「支える人」と「受ける人」に分かれず、「受ける人」も「支える人」としてできることはやってみる。「支える人」も「受ける人」になり、やりすぎない。

皆が何かグループ内で役割をもつべし！



その3

既存のグループ内で要介護者がいても、地域の専門職を活用して、いつまでも仲間であるべし！



調布市の超高齢社会を救えるのは、調布市民の皆様のお力しかありません。
一緒に、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる調布市をつくりませんか？
調布市及び生活支援コーディネーター一同



登録番号
(刊行物番号)

2017-42

平成28年度 調布市生活支援体制整備事業事業報告書

発行日 平成29年4月

発行元 調布市福祉健康部高齢者支援室高齢福祉担当

〒182-8511

東京都調布市小島町2丁目35番地1

電話 042(481)7149

FAX 042(481)4288

E-mail kourei@w2.city.chofu.tokyo.jp

印刷 庁内印刷